

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4390100388 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人山清福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホームほほ笑み | | |
| 所在地 | 熊本県熊本市東区戸島西5丁目5番26号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年12月30日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年4月9日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」 |
| 所在地 | 熊本県熊本市水前寺6丁目41-5 |
| 訪問調査日 | 平成27年1月20日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各居室は庭への出入りが自由な掃き出し窓を採用し、共有空間の天窓や菜園と相まって開放感のある建物となっている。
 今年度は災害時の避難経路の充実を目的とした施設整備に着手したり、火災発生時には火災通報装置と連動して全職員にメールで火災の発生を知らせる「火災一斉メールシステム」を導入したりと、特に防災力の充実に努めた年度であった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

* 職員の資格取得のために勤務や費用面の支援制度を作り、向上心を高める環境を整えることで、試験等に取り組む姿勢を後押しし、日々のケアを丁寧に取り組む志を育てている。
 * スプリンクラーをはじめとする防災設備や火災一斉メールシステムの導入、職員への意識付け等以外にも、多様な気配りがみられる事から防災意識が高いと思われた。
 * 管理者は、職員自身の創意工夫と実践によって成長できるような指導に力を入れている。ミーティングや勉強会での活発な意見交換が、職員の身近な「疑問」を「気付き」に変え、日々の業務に工夫を生み出しサービスの向上に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|---|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 開設当初に「環境・愛情・清潔・安全」への思いを込めて管理者と職員とで作成した理念があり、定期的な職員会議の中で、理念の共有を図っている。 | 「環境・愛情・清潔・安全」という理念を4つの色で象徴し「ほほ笑み」の4文字をその色で表わしている。理念に込められた思いを理解するための具体的なマニュアルを参照しながら、職員会議等で共有し、現場での実践に繋げるよう努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に加入し、地域の清掃活動に参加したり、青少協の会議や地域住民の会合に場所を提供している。また、地域の中学校や保育園との交流事業も実施している。 | 自治会に加入し地域と接点を持つ努力をしている。回覧板から地域行事の情報を得て「どんどや」に参加したり、地域包括支援センターが主催する「認知症介護家族の会」の会場場所として和室を提供し交流を図っている。中学生や保育園児との歌やレクリエーション等、継続した交流事業は利用者の楽しみとなり訪問が待たれている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域包括支援センター主催の認知症介護家族の会合場所として、当事業所の和室が活用されている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 事故の報告や入退居の状況報告を主な議題として開催している。 | 運営推進会議は地域代表・行政・利用者家族の参加を得て開催している。職員の入退職や防災について報告があり、利用者の身体機能低下に伴い、更に避難経路を充実する計画や火災一斉メールシステム導入等が報告された。尚、火災一斉メールシステムに委員も加入する等、積極的に協力する姿勢が伺われた。 | 運営推進会議は、地域の理解や協力を得て事業所をより良くするための重要な会議である。計画通り定期的に開催される事を期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議への地域包括支援センターの参加、事故発生時の連携はもちろん、必要に応じて市の担当者とも報告・連絡・相談・確認の作業を行っており、市町村と共にサービス向上に取り組む体制を整えている。 | 管理者は熊本市の「地域密着型施設管理者連絡協議会」の会長を務めている。熊本市の指導班と連携して管理者の勉強会を開催し、実地指導の反映を共有し、地域の福祉施設全体の質向上に繋げるよう努めている。又施設だけでは解決が困難と思われた事案を市役所に相談し、迅速、且つ、親身に解決策を提案してもらう等、協力関係を築いている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 「身体拘束に関するマニュアル」の中で介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を明記し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。 | 身体拘束に関するマニュアルやテキスト等を活用し、職員に拘束をしないケアの意識付けを行っている。言葉や薬による拘束についても、現場で具体的にわかりやすく説明しており、拘束の防止について日々の再確認が行われている。帰宅願望のある利用者をドライブに誘い気分転換を図る等、拘束をしないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 特になし | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 特になし | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約は入所の前に一度内容の説明を行い、入所日に再度の説明を行っている。これは、理解と納得を得られるよう十分な時間を確保し、一方的な説明にならないよう留意しているためである。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 国保連の苦情対応ポスターを事業所内に掲示し、また、管理者も利用者の居室を訪ねて現状の把握に努めている。 | 管理者と職員が訪問者に積極的に声をかけ温かく迎え入れている光景が見られた。家族が不安になるような内容ではないうれしい報告をするよう心がけている。毎月の請求書には手紙と写真を添え、利用者の状況・経過を伝えて安心に繋げている。尚、末尾には「不明な点がありましたら、いつでもご連絡ください」と呼び掛け、意見が言いやすいように工夫している。職員は誠意を持って関わるという意志を手紙の文面で表わしており、信頼関係を築いていると思われた。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的な職員会議で運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 管理者は、職員が自ら考え実践することで成長できるよう指導を行っている。職員会議では活発な意見交換が行われ、ケアの内容に反映されている。職員で解決できない事案や、内容によっては管理者に相談し解決を図っている。職員の資格取得を支援する取り組みとして、受講や受験の日を勤務扱いにし、勤務シフトにも考慮が加えられ、受験と受講費とテキストの費用を支援している。プロとして目標を持って日ごろの仕事を大切にしている姿勢が更に職員を成長させているように思われた。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 介護職員処遇改善交付金等の制度の活用はもとより、各自が向上心を持って働けるよう社会保険労務士に専門的な指導を仰ぎながら、職場環境の整備に努めている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 事業所独自のスキルアップ支援制度を策定し、介護に関する資格取得を支援している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ブロック会の出席だけでなく、独自に情報交換に努めている。 | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 主な利用サービスの担当者との情報交換や三者面談、ご家族も交えた四者会談を駆使して、ニーズの掘り起こしと把握に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 主な利用サービスの担当者との情報交換や三者面談、ご家族も交えた四者会談を駆使して、ニーズの掘り起こしと把握に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初回の見学時や利用申請書提出時に面談の時間を設け、現状とニーズの把握に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 洗濯物の取り込み、食器洗い等の日常の家事を一緒に行い、本人が介護される一方の立場におかれないよう留意している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 特になし | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 特になし | 毎月、全家族に出す手紙に写真を添えて利用者の様子を伝えている。遠隔地の家族は施設に宿泊も可能で、利用者と外出する等、共に過ごしてもらい絆を深めている。七五三や成人式、家族の祝い事での訪問、時には家族の協力を得て馴染みのうなぎ屋さんで食事をする等、馴染みの人や場所との関係継続に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員が間に入って、トラブルの事前回避に努め、相互理解の促進を図っている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院退所後にも、病院で行われるカンファレンスに参加して継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人やご家族、主なサービス担当者からの聞き取り等による情報収集、及び入居後の職員の気付きによって意向や希望を把握している。 | 利用者の声に耳を傾ける事や、笑顔で接する事を心掛け、日常会話とつぶやき・表情などから思いを把握するよう努めている。意思表示できない利用者には、家族からの聞き取りで情報を収集し対応している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人やご家族、主なサービス担当者からの聞き取り等による情報収集によって、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 本人やご家族、主なサービス担当者からの聞き取り等による情報収集、及び入居後の職員の気付きによって一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 入居前の情報や家族からの情報を元に、概ね1ヶ月程度の状況把握期間を経て介護計画を作成している。 | 日常的に活発な意見交換が行われ、収集した情報を基にモニタリングを実施。家族には機会あるごとに状態を説明し、検討した内容をケアプランに反映して現状に即したプランを作成している。利用者が何を求めているか、何が利益になるかを視点に据えて作成することを大切にしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 特になし | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 民生委員や老人会、地元の中学校を招待した行事を行っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 4週間に一度の協力医療機関受診を基本としているが、以前に受診していた病院や専門医等の受診希望があれば、当事業所が通院に係るすべてを行う形で支援している。 | 利用者・家族の希望に沿って、協力医療機関の利用者が8名、以前からのかかりつけ医1名で、ともに定期的な往診を利用している。整形外科や眼科等、専門医受診も職員が同伴し受診している。夜間など緊急時の搬送先については事前に家族の意向を確認しており、日赤病院又は市民病院を受診している。定期的な往診・専門医受診・緊急時受診と適切に支援し、利用者・家族の安心に繋げている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 特になし | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院で開催されるカンファレンスには概ね出席しており、退院に向けた調整には積極的に関わっている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 家族に対しては、医療機関との連携に関する一般的な方針の説明を行っている。 | 看取りは行っていないことを入所時に家族へ説明しており、濃厚な医療が必要になった場合はかかりつけ医や家族と相談の上、医療施設への入院となっている。管理者と職員は入院先にお見舞いに訪れ温かく見守り、長期入院となり退所となっても、再度利用希望があれば優先的に受け入れることを契約書に謳い安心につなげている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 特になし | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回の防災訓練を実施しており、昼夜の非常時に備えている。 | 年2回の防災訓練や専門業者による防災設備点検を定期的実施している。喫煙場所を屋外に設置、利用者の身体機能低下に伴い現在あるウッドデッキの範囲を拡張して更に避難しやすくする計画を立てる等、現状を見極めながら対応している。地域住民へ訓練参加を呼びかけて、お知らせの手紙を出しているが現在まで参加は見られない。訓練の実施に理解を得るために参加呼びかけを継続していく事を方針としている。新たに呼び掛けの工夫の必要があると思われる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | テキストによる内部研修の機会に、人格の尊重とプライバシーについての教育を徹底している。 | 施設内の事例を挙げて、テキストを活用しながら内部研修を行うことで、更に説得力を持ち職員の意識が高まっている。言葉使いに関しては施設独自のテキストを作成し、誇りを傷つけない言葉かけを、具体的にわかりやすくまとめている。呼称は姓に「さん」を付け呼ぶ事を基本として、同姓が複数の場合は家族の了解のもと、名前に「さん」を付けている。気になる場面では、その都度その場で日々指導を行う事を旨としている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事時間等大まかなスケジュールは用意しているが、レクレーション参加や日中の過ごし方、就寝時間などは各入居者のペースに合わせて支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 服装は原則的に各利用者が自由に選択したものを着用している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 下膳や食器洗い・お茶汲みなどを入居者と一緒に行っている。 | 食事は冷凍食を温めた給食で賄われている。利用者の嚙下に合わせた、ミキサー食や刻み食の他、苦手なものは変更可能とみられ、利用者に合わせた食事が提供されている。尚、セレクトメニュー・忘年会時の鉢盛り・お節料理等は提供されており、変化を付ける等が行われている。菜園で収穫した薩摩芋を、利用者の希望でてんぷらにして頂く事もあり、揚げたての味は格別と好評を得ている。 | 四季の行事食や郷土料理を取り入れる他、時には旬の果物をメニューに加える、ウッドデッキで食事する等、五感を刺激し季節感を豊かにする工夫が望まれる。食事に変化が生まれ、更に楽しい時間になるような支援を期待したい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 特になし | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 義歯の洗浄や歯磨きの部分的な介助など、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援を行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 必要に応じて時間による誘導やポータブルトイレを活用などの手段を講じ、排泄の自立にむけた支援を行っている。 | 便器に背もたれと手すりが付いており、座位や立位が安定する他、暖房機を設置する等して、室温を快適に保ち、自立支援に努めている。トイレ内のおしゃれなケースにおむつを常備しており、更に清拭用のホットタオルを準備しており、利用者が失禁した際もさりげなく速やかに対応を可能とする等、プライバシーや人権尊重が配慮されている。尚、おむつやパット使用に関しても経過を確認しながら、個別に適切なタイプを使用している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 特になし | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入居者の体調や希望に応じた入浴支援を行っている。 可動式の浴槽やリフトの活用により、多様な入居者が安全で快適に入浴できるようになっている。 | 浴室には手すりが設置され、浴槽の両端は座面を広くし、利用者の身体機能を活かして自力で浴槽に入れるよう工夫されている。リフト浴は利用者の身体機能低下に応じて新しく設置され、利用者・職員が安心して負担なく入浴が可能となっている。また、身体状況に関わらず全利用者の入浴を可能としており、清潔を保持して更に満足度を高めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の過ごし方は基本的に自由である。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | お薬手帳を活用しており、更に薬の内容と効用に関する資料を利用者台帳に加えている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 洗濯物たたみや食器洗いなど、能力に応じた役割を分担したり、事業所内にて猫を飼育することで日常生活に楽しみと変化を持てるよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ドライブや散歩をレクリエーションの一環として実施している。 | 車に乗って自衛隊通りの桜の花見や県庁の黄葉を見に出かけている。施設周辺の散歩では、鳥の鳴き声や田園風景等の季節の変化を楽しむことが出来、保育園の夏祭りや地域のどんどこやに参加したり、隣設するデイサービスに出かける等、気分転換を図っている。 | 施設は利便性の良い地にあるという恵まれた環境を活かし、時には買い物や外食等を普段の外出に追加することで、更に楽しく気分転換が図れると思われる。 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 特になし | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 特になし | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 吹き抜けになった天井や天窗、そして床暖房など、採光や換気に配慮した設計に加え、室内には観葉植物を飾ってある。また、和室やソファなどを配置して思い思いに過ごせる場所が随所に確保してある。 | 日当たりの良い共有の和室には掘りごたつがあり、ゆったりと過ごすことができる。リビングは吹き抜けの天井で広々としており、換気や室温にも配慮され過ごしやすい環境となっている。新聞のチラシを興味深く見ている人・家族と談笑している人・職員とゲームを楽しむ人等、自由に過ごしている姿が見られた。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 和室やソファなどを配置して思い思いに過ごせる場所が随所に確保してある。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 畳のある居室やフローリングの居室があり、掃き出し窓から中庭・ウッドデッキ・菜園へ直接出られるように工夫されている。各居室には、家族と相談しながら使い慣れたものや好みのものが持ち込まれている。 | 冷蔵庫・テレビ・家族写真・使い慣れた机といす等が持ち込まれ、落ち着ける我が家のような部屋となっている。また、持ち物をクローゼットや押し入れにすっきり収納した部屋やご主人からの愛情たっぷりのメッセージを見やすい場所に掲示している部屋等、本人らしい部屋作りがなされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 人間関係や趣味と合わせて、能力や理解力も考慮して食堂の席や行事の際のグループ分けなどを工夫し、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように努めている。 | | |